

令和5年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

地方公共団体名【美祢市教育委員会】
令和5年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者 ・学校教育課 ・子育て支援課 ・美東総合支所 ・身元引受人 ・国際交流ひらかわ風の会 ・山口県国際交流協会
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(1)地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記関係機関と情報共有を行い、対象児童及び家庭の支援を行った。 <p>(2)学校における指導体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教育課程」を編成し、学級支援補助教員等による個別指導の体制づくりを行った。 ・通常の学級においても、きめ細やかな支援を行うことができるよう、学級支援補助教員等を常時配置した。 ・児童の家庭をサポートしている団体(風の会)との連携を密に取り、児童の指導に合わせて、母親の日本語教育を行う体制づくりを行った。 ・家庭との連携を密に図るため、後見人との連絡体制の構築、行事における ALT 等との連携を図った。 <p>(3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教育課程」により、学級支援補助員と本校教諭による日本語の個別指導を週5時間(1日1時間)実施した。主な学習内容は、以下の通りである。 <p>1学期・・・日常生活に必要な言葉の獲得、身近なものの名前等の語彙を増やすこと、ひらがなの習得</p> <p>2学期・・・ひらがな、カタカナの習得、文字を読むこと、時計を読み生活習慣を振り返ること</p> <p>3学期・・・ひらがな、カタカナの習得、興味のある漢字の習得、短文を書くこと</p> <p>※通常の学級において、友達とのコミュニケーションを主にした学習の時には、同学年の児童と一緒に学習する場面もあった。</p> <p>(4)成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美祢市において外国人児童生徒に対する指導が必要になったときに、他市の連携体制をモデルとして活用できるよう、継続的に研修や他市の協議会へ参加した。 <p>(10)日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週3日の勤務日に1時間、別室で国語の授業を実施した。残りの時間は、教室での授業の支援を行った。
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(1)地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が情報を共有して、対象児童の支援を行うことで、学校やその他の生活について、安心感をもって過ごすことができた。 <p>(2)学校における指導体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教育課程」を編成したことにより、生活に必要な日本語の指導からスタートすることができ、会話によるコミュニケーションを行うことができるようになってきた。また、個別指導によって、ひらがなを概ね習得できた。 ・家庭との連携を密に図るため、後見人との連絡体制の構築、行事における ALT 等との連携を図った。

(3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施

- ・1日1時間の個別指導を継続することによって、母国語で習得していた言葉を日本語に置き換えて理解していくことができ、日本語で自分の思いを伝えることができるようになった。
- ・児童の学びに向かう意欲を損なうことなく、スモールステップで学習を進めることができた。
- ・語彙が増え、友達や教員とのコミュニケーションを言葉で行うことができるようになった。

(4) 成果の普及

- ・先進的に外国人ルーツの児童の受け入れを行っておられる他市の協議会に参加したり、情報を共有したり、助言をいただくことができた。

(10) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

- ・1日1時間の個別指導を継続することによって、母国語で習得していた言葉を日本語に置き換えて理解していくことができ、日本語で自分の思いを伝えることができるようになった。
- ・児童の学びに向かう意欲を損なうことなく、スモールステップで学習を進めることができた。
- ・語彙が増え、友達や教員とのコミュニケーションを言葉で行うことができるようになった。

	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育 学校	高等学校	中等教育 学校	特別支援 学校
本事業で対応した幼児・児童 生徒数	人 (園)	1人 (1校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
うち、特別の教育課程で指導 を受けた児童生徒数		1人 (1校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

4. その他(今後の取組予定等)

今年度末で、対象児童の転出が決まっているため、転入した地域で安心感のある生活が送れるために、関係機関で集約して、転入地域の関係機関と情報共有を行う。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。